

“バス通学の運動不足を徒歩区間の設置で解決する掛合小学校の好事例に学ぶ”

小学生の毎日の徒歩通学は、大事な運動の機会です。しかし、都市にくらべ地方（へき地）ではバス通学の増加により徒歩などのアクティブな通学者の割合が少ない状況にあります。もし今後も学校の統廃合が進むことで、学校から離れたところに住む子どもがバス通学になれば、1つの運動の機会を失う可能性があります。

そういった中、島根県にある雲南市立掛合小学校では、平成 21 年度からスクールバスの停車位置を小学校から約 500m 離れた場所にして、そこから徒歩で集団登校（徒歩区間設置またはリモートドロップオフ）をして、運動不足解消をねらっています。そこで、安部孝文講師（地域包括ケア教育研究センター）らの研究チームは、その取り組みが全国の学校の好事例になると考え、当時、取り組みが行われた経緯やなぜ実施することができたのかをインタビュー調査で調べ、下記の論文で発表しました。

また、島根大学、身体教育医学研究所うんなん、東京大学、山梨県立大学、千葉大学の共同研究チームは、新年度や学校の統廃合などでスクールバス路線を見直す際に、安全に子どもの運動量を確保するためにスクールバスに徒歩区間の設置を検討して欲しいと考え、その際の基礎資料とするための事例をまとめました。概要はマンガをご覧ください。

詳細は、学術誌「体育学研究」に掲載されています（2025 年 4 月 10 日受理、2025 年 4 月 15 日付けで、オンライン上で早期公開）。

また、本研究は、JSPS 科研費 23H00201（安全と身体活動を両立する Active School Travel の探究と都市計画・デザイン手法の確立）の助成を受けて行われたものです。

■ 論文タイトル：小学校におけるスクールバスの徒歩区間設定の実装過程と促進・阻害要因：実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）に基づく質的研究

■ 掲載誌：体育学研究

■ 論文 URL: <https://doi.org/10.5432/jjpehss.022-24099>

■ 著者（所属・職名）

安部孝文（島根大学研究・学術情報本部地域包括ケア教育研究センター・講師）

鎌田真光（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻健康教育・社会学分野・准教授）

北湯口純（身体教育医学研究所うんなん・副所長）

山北満哉（山梨県立大学 看護学部・准教授）

花里真道（千葉大学予防医学センター・准教授）

樋野公宏（東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻・准教授）

【研究に関する問合せ先】

島根大学研究・学術情報本部地域包括ケア教育研究センター

講師 安部 孝文

電話：0853-20-2586

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



研究概要の紹介マンガ



停車位置変更に伴う対応

- 新たな予算は**不要**
(後日のぼりや横断歩道の設置)
- 徒歩区間を考慮した**時程**
- **バス停車場所**の確保
- 徒歩区間の**安全性**の確保
- **災害時**の対応



身体活動の研究者による アイデア提供

- 徒歩区間設置の**後押し**に



PTAの関心の高さと 円滑なコミュニケーション

- 子ども達の**体力低下**を心配する保護者
- 学校側は地域住民との交流や集団登校における 上級生の役割の喪失、1限目に覚醒していないなど **教育的課題**を認識
- PTA (会長) と学校長の**円滑なコミュニケーション**



スクールバスの路線の調整

- 掛合小学校では、**教育支援コーディネーター**が バス路線の計画調整を実施



掛合小学校で 徒歩区間設置が 実施できたポイント